

奥山●もう少し協会の活動内容についてお聞かせいただけますか。

荒木●たとえば介護施設ですと、ネイルを施したことで認知症のBPSD認知症の行動・心理症状)や介護負担度がどう改善するのかエビデンスを取ったりしています。施設のほかに、日本パラ陸上競技連盟と提携して選手選考会に招いてもらったり、高齢者のねんりんピックに参加させていただいたこともあります。さらに最近では、災害支援として石川県の被災地に行かせていただいたこともありました。また、協会独自の研究発表会も行っており、福祉ネイリスト自身がネイルの効果などの研究を重ねている点は、ほかの美

容系の法人と異なると思います。

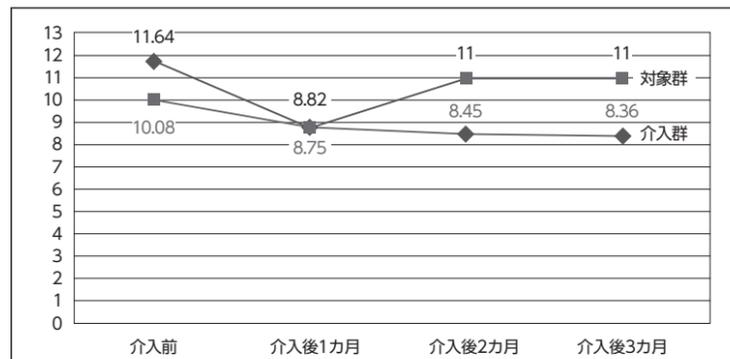
奥山●BPSDの改善について触れられていましたが、具体的にどのような変化があったのでしょうか。

荒木●それについては専門家のお二人にお話しいただいたほうが良いかと思いますが、いかがでしょうか。この間も認知症予防学会で発表されていきました。

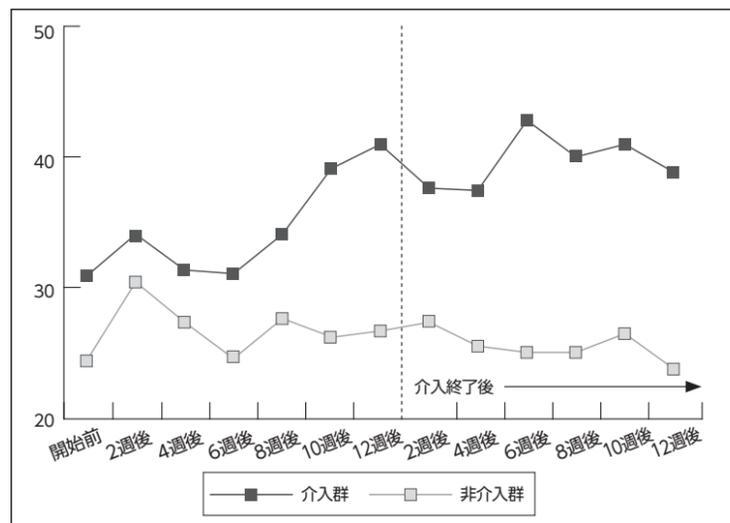
奥山●では、坂本先生いかがでしょうか。

坂本●私が行った研究では、介護老人保健施設に入所している23人の高齢者に「マニキュア介入」を行い、「マニキュア介入を行った群」と「行っていない群」に分けて3カ月間介入の効果を観察しました。効果があった部分としては、BPSDの数値が全体的に下がっていった(図表1)。なかでも、鬱・不安・興奮の数値が減少傾向にあったという結果が出ています。

図表1 NPI-NH (BPSDの評価)の効果



図表2 「集団体操参加への積極性や意欲」を示す指標の推移



続きは、本誌2月号をご覧ください

彩ることでQOLが改善時間が経っても効果は続く

ファシリテーター☆



● 奥山美奈
TN サクセスコーチング株式会社 代表取締役

座談会参加者☆



● 石井智子
一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会事務局 愛知県一宮校認定校 講師

座談会参加者☆



● 坂本将徳
一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会理事 広島都市学園大学健康科学部 講師

座談会参加者☆



● 佐藤三矢
一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会理事 東京通信大学人間福祉学部 教授

座談会参加者☆



● 荒木ゆかり
一般社団法人日本保健福祉ネイリスト協会 代表理事

高齢者や障害者の身体の変化に考慮

奥山●そもそも、「福祉ネイル」とはどのようなものなのでしょうか。

荒木●福祉ネイルは、高齢者や障害者、病気療養中の方などといった「自力でネイルサロンに行くことが難しい人」に対して、ネイリストが出張してネイルを施すサービスです。ネイルで爪を彩ることで「その人の元気や笑顔」を引き出し、その人のQOL向上につなげていく。私たちの協会では、ネイルを行う「福祉ネイリスト」の育成に取り組んでいます。

奥山●ネイリストが赴いているんですね。どのような施設に訪問しているのでしょうか。

荒木●就労継続支援A型事業所やB型、放課後等デイサービス事業所といった障害者施設、デイサービスや特別養護老人ホームなどの高齢者施設と、さまざまです。ただ、ご自宅にうかがうことはまだ少ないかと思っています。

奥山●基本的なことになるかと思いますが、美容のネイルとの違いはどこにあるのでしょうか。

荒木●大きく違う点は、対象としている方が認知症を患っていたり身体が不自由であったりと、何かしらの制限がある人が多いので、そのようなところに配慮していることです。そのため、時間がかかったり華美な装飾ではなく、短時間でも満足してもらえるものをめざしています。病院に入院される方でしたら匂いに配慮しなければなりませんし、抗がん剤治療の方ですとジェルネイルを施すことによって副作用で爪が弱くなってしまうため、爪を強化したり、割れた爪を修正したりといった施術を行うなど、その方の困り事を解決することに注力しています。

ただ、もちろん「おしゃれを楽しみたい」と思う方もいますので、指一本だけに行うワンポイントアートや、3分ほどで描けるデザインなども提供しています。

奥山●なるほど。負担にならないよう短時間でできて、かつ爪を強化したりするなど困り事にも貢献する。それだけでなく、おしゃれを楽しみたい人にはアートも提供しているということですね。まさに「社会的な意義のある活動」だと感じます。

荒木●本当にそのとおりだと思います。

奥山●なるほど。佐藤先生も似たような研究をされていますよね。

佐藤●はい。これは私が福祉ネイルにのめり込むきっかけとなった研究なのですが、認知症高齢者を「ネイル介入群」と「非介入群」に分けて2週間に1回の頻度で両手の指にマニキュアを塗ったところ、介入群のQOLが向上したことが確認できました(図表2)。たとえば認知症の方が

集団で体操を行っていたりすると、途中で立ち去ってしまったり集中できなくなったりすることがありますが、そういった積極性や意欲がネイルによって改善できたと言えるのです。さらに、介入をやめた後は効果が落ちるものだと思っていました。が、予想とは裏腹に効果が継続されていたことに衝撃を受けました。

奥山●「効果が持続した」とこのことで